第 26 回参議院議員選挙結果を受けての見解

2022 年 7 月 10 日に投開票された第 26 回参議院議員選挙は、与党が 69 議席から 76 議席と大幅に議席を増やし、改選過半数を獲得した。加えて改憲勢力は、憲法改正発議ができる３分の２以上を大きく上回る結果となった。

私たちＪＲ総連は、第 26 回参議院議員選挙を憲法改悪阻止のたたかいと位置づけ、19 名の候補者の推薦・応援を決定し、全員の当選をめざして選挙戦をたたかった。
各単組、地協、労連の仲間たちは、職場・地域において最後まで全力でたたかい抜いてきた。その結果、比例代表で鬼木まこと氏、選挙区では９名の当選を果たすことができた。全国で奮闘していただいた組合員の皆さんに感謝を申し上げる。

立憲民主党と国民民主党は議席を大きく減らした。直近２回の参議院議員選挙では全 32 選挙区で候補者を一本化したが、今回は 11 選挙区にとどまった。改憲勢力に対する野党の足並みが揃わず、残りの 21 選挙区で野党が競合するかたちとなった。さらに、投票率も 52.05％という過去４番目の低さとなり、議席数を大幅に減らす一因となった。

このような事態を招いた責任は労働組合の側にもある。連合は共産党などを念頭に「目的や基本政策が大きく異なる政党と連携・協力する候補者は推薦しない」と表明し、野党共闘に水を差した。さらに、連合芳野会長が自民党の麻生副総裁らとの会食に応じたり、自民党本部で講演をおこなうなど、「自民シフト」との懸念を連合内外に広げたことは、今後の連合運動そのものの質にかかわる問題である。
ＪＲ総連は、これからも各単組と連携し、ＪＲ総連運動の強化を通じて、連合内産別との連帯・共闘の構築のために奮闘していく決意である。

参議院議員選挙の最中、安倍元首相が銃撃され亡くなるという事件が起きた。安倍元首相はこれまで憲法改正を悲願とし、ロシアのウクライナ侵攻・侵略を契機に「核共有」論を持ち出し、日本の軍備増強を求め「戦争のできる国づくり」を推し進めてきた。ＪＲ総連はその主張には反対である。しかし、いかなる理由があろうとも、銃弾で人の命を奪う行為や言論を封殺する行為は断じて許されない。
ＪＲ総連はいなかるテロにも戦争にも反対の立場で、「抵抗とヒューマニズム」を基底に、平和・人権・民主主義を守るために、引き続き全力でたたかっていく。

選挙結果を受けて岸田首相は、「できるだけ早く発議にいたる取り組みを進めていく」と述べ、憲法改正に意欲を示している。一部マスコミも安倍元首相の遺志を受け継ぐ必要性を訴え、憲法改正と軍備増強に向けた世論喚起をおこなうなど、今後は改憲勢力を中心に日本全体が憲法改正の流れに組み込まれていくことが危惧される。

私たちＪＲ総連は、この「日本の転換点」において、憲法改悪に向けた国民投票を見据え、９条連の仲間との連帯・共闘を強化し、ＪＲ総連推薦議員懇談会所属の国会議員との連携をさらに強め、憲法改悪を阻止するたたかいの裾野を広げていこうではないか。そして、この参議院議員選挙で培った組織力を来年の統一地方選挙のたたかいにつなげていくことを訴え、ＪＲ総連としての第 26 回参議院議員選挙を終えての見解とする。

2022 年 7 月 13 日

ＪＲ総連執行委員会